

韓国忠清南道禮山郡尹奉吉義士梅軒文化祭・祭享と月進会との友好交流について

《 歴史的経緯 》

1932年4月29日、当時の天長節の日、上海に於いて、韓国では日本植民地支配からの独立闘争の英雄と尊敬されるユン・ボンギル（尹奉吉）義士が、戦勝祝賀式典壇上の日本侵略軍首脳に向かって爆弾を投擲しました。近代史に残る「上海爆弾事件」です。（この爆発で、河端貞次が即死、第9師団長植田謙吉中将・第3艦隊司令長官野村吉三郎海軍中将・在上海公使重光葵・在上海総領事村井倉松・上海日本人居留民団書記長友野盛が重傷を負った。重光公使は右脚を失い、野村中将は隻眼・せきがんとなった。白川大將は5月26日に死亡した。「戦死」）

大陸侵略の中心部隊として名を馳せた軍都金沢の第9師団がユン・ボンギル義士を捉え、軍法会議を経て、同年12月19日、市郊外の三小牛山陸軍演習場にて銃殺刑に処し、秘密裏に野田山陸軍墓地崖下に暗葬しました。日本敗戦後、遺体は発掘され、1992年12月19日（義士命日）、金沢市の土地支援の下、生地禮山郡月進会から揮毫を得て、市民の募金によって暗葬の跡地碑が設置されました。爾来、遺体発掘に関与した故村仁祚前月進会日本支部長によって、史跡として整備が重ねられてきました。

《 平和友好交流 》

この近代の不幸な歴史を留める野田山の暗葬跡地を機縁として、この間、4月29日義挙記念日に執り行われる祭享（さいりょう）に参列することをはじめ、生地禮山郡月進会との間で相互訪問による活発な民間交流を展開してきました。2005年には、郡守と市長、さらには市議会議長と郡議会議長の相互訪問も実現し、文化芸術も交えて交流はより広範な分野に発展しています。

2006年の禮山郡訪問時では、韓国民族芸能である農楽を再興し、芸術的価値を高めたサムルノリを創始した四天王のひとり、李光壽率いる民族音楽院と出会い、文化祭典で和太鼓グループ「鼓民」とのコラボレーションが実現しました。これ以来、同年10月に金沢国際交流まつりへの民族音楽院の招聘、2007年6月の門前地区震災慰問公演、百万石まつり公演と交流が深められてきました。2009年9月には、本格的な民族音楽院金沢公演が大好評を博したところです。

韓国併合から100年の今年、改めて日本の側の歴史認識、外交姿勢が問われる中、日本の植民地支配の歴史を共有した日韓の官民の自治体間交流が促進されることは、東アジアの平和構築に寄与する意義深いものです。金沢・禮山の交流史をさらに前進させたいところです。

【 解 説 】

祭享（韓国読み チェヒャン）祭事の尊敬語。4月29日を上海義挙賞賛日と定め、尹奉吉義士の魂を祭る。

出身地の忠義祠で毎年、政府・禮山郡・月進会で祭典が行われてきた。義士を生んだ禮山郡は、より盛大な祭享を願い、義士が創った月進会主導の文化祭（ムンファジェ）として1973年から開催されてきた。郡内で30余種目が行われる文化祭は、時には10日間に及ぶ。祭享は、今では郡内の一大年中行事となった。（観客約10万人）

月進会とは、尹奉吉義士が農民運動中に組織し、戦争によって義挙後当局の弾圧下で地下に潜り、戦後再建された尹奉吉宣揚の最大団体である。現在、永く会を率いてきた尹圭相氏は名誉会長に就任し、元ソウル選出国會議員李佑宰氏が会長を務めている。